

# 神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2020年  
12月号  
クリスマス号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者  
司祭 上原 信幸

印刷所  
文明堂印刷所

## 全ての人を照らす光

司祭 オーガスチン 興賀田 光嗣

### コロナ禍で顕わになる世界

私達は今、二〇二〇年のク

リスマスを迎えようとしています。歴史学者のハリリが記すように、二〇二〇年は歴史的な年となりました。Covid-19によるパンデミックは世界の矛盾を悉く顕わにしました。パンデミックの語源がパン(全ての)デモス(民)から来ているように、全ての人間の問題が照らし出されました。格差問題、人種差別問題、政治の不透明性、大国の隙を見て起こる紛争、テロなど。本来は前からある問題なのですが、私

達は見て見ぬふりをしてきたのです。この原稿を書いている今、Covid-19の第二波により、ドイツ、フランスはロックダウンを決定。私の住む英国もロックダウンに入ることとなりました。英国の有力紙ガーディアンは「早くロックダウンを行い、クリスマスを無事に過ごせるように」と一面で述べています。

### 待ち望まれるクリスマス

英国においてクリスマスは、実に待ち望まれているも

のです。長い暗闇が続く英国の冬では、クリスマスの光は人々を照らすだけでなく、身も心も温めてくれるからです。



私の職場がある村の人口は三千人ですが、そのうち八百人が聖公会の教会にてクリスマス礼拝に参加します。全員が聖堂に入りきれないので、礼拝は日に何度も行われます。普段、教会に行かなくて

も、クリスマスには聖堂で共に寄り添い、聖歌を歌うことを多くの人々が楽しみにしているのです。残念ながら今年のクリスマスは、例年のように祝うことは難しいでしょう。感染拡大を防ぐため、歌うことは禁止されているからです。聖堂が満席で立ち見になるあの光景は、人数制限のため見ることはできません。本物のロバを使った聖劇を味わうことも叶いません。遠く離れた家族や友人と共に過ごす時間は、法的に許されることとはないでしょう。長い冬を照らすあのともし火は、一体どこに見つけることができるのでしょうか。

### 光が照らすもの

二千年前、イエス様はこの

ような暗闇の中に来られました。明るい昼間の王宮ではなく、夜に包まれた貧しく寂しい場所へ。暖かな部屋ではなく、寒空の馬小屋へ。誰も見向きもしないようなところへ、イエス様は来られたので

す。闇の中で息づく幼子の温もりは、それに寄り添い触れる人々の心を照らします。「命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。」

「全ての人を照らす光、み民イスラエルの栄光」

私達は、時に憎しみに駆られ、自己中心性の檻に入り、無関心を装い、世界から目を背けます。身近な誰かにさえ、そうしてしまう苦い記憶を私達は抱えています。私達の魂は凍えているのです。しかし幼子の温もりは、私達に寄り添い、与えられた命の意味を照らし出します。この光は、あなたに寄り添う方がいるように、全ての人を神の民として共に歩みなさい、と私達の闇を払います。

あなたという歴史に与えられた温もり、このクリスマスプレゼントを受け止め、主の御降誕をお祝いしましょう。クリスマス、おめでとうございます。

(立教英国学院チャプレン)

**特集**  
**ヨーロッパの**  
**クリスマス**

ヨーロッパの冬は寒い。そして長い。

様子が見られる。

パリでは、早くにも九月にセーターを取り出し、十月にコートや手袋やマフラー、十一月〜十二月にはダウンや帽子なしでは凍えてしまいそうな程冷えこむのである。日の出ている時間も短く、十六時頃には既に薄暗くなり、仕事帰りの人々はコートやマフラーに顔を埋める様にして、言葉少なに足早に帰途に就く。

ヨーロッパのクリスマスは、日本で言うところのお正月の様なもので、家族が集まってミサに行ったり、沢山のプレゼントを籠に備えたクリスマスツリーを盛大に飾り、それを眺めながらディナーを楽しんだりという、意外に静かな時間である。しかしひとたび暖炉の傍で始まった家族の会話は尽きることがない。

思い、旅に出た。ところが、ヨーロッパのクリスマスはあくまでも家族で過ごすもの。イタリアでは、二十四日の夕方早々に公共交通機関が閉鎖され始めるではないか。このままでは深夜に大聖堂からホテルに戻るどころか、ミサに行くことさえままならない状況だ。その日は諦めて二十五日のミサに出ることにした。翌年も懲りずに思った。「そうだな！今年のクリスマスはロンドンにしよう！」そう思い、旅に出た。ウェストミンスター寺院のイヴのミサに行こうと思ひ、寒空の下、足早に向かう。ところが、ロンドンでは二十四日のミサには何とか行けそうなのだが、終わってからホテルに戻るための手段が見付からない。当時住んでいたパリでは、深夜のミサが終わってから家に帰り着く時間帯まで、公共交通機関の最終時刻が延長される慣わしとなっているのに、どう

して閉鎖時間が逆に早まるのだ？その年も二十五日のミサに行くこととなった。それも徒歩で。と言うのも、二十五日にはイギリスのほぼ全ての公共交通機関がストップしてしまうからだ。そのせいか、英仏を繋ぐユーロスターもこの日は運行していない程なのである。二十五日も賑やかなフランスとは異なり、数少ない、開いている店なども早々に閉まってしまふのだ。

ちなみに二十六日は、イギリスではボクシングデーと呼ばれる祝日となっている。元々この日は、貧しい人々のために教会が寄付を募ったクリスマスプレゼントの箱を開ける日にちなみその名が付いたが、二十五日に休暇を取れなかつた使用者が家族と過ごせる様にする日でもあった。

この日、使用人やクリスマスカードを運んでくる郵便配達人にプレゼントを贈る習慣があったとされる。

一方、クリスマス前のフランスでは、消防士、郵便配達人、道路清掃人らがカレンダーを持って訪ねてくるから、日頃の感謝の気持ちを込めて、心付けを渡すものだよ、と教えられた。労働者に、チップを要求する権利を認めているお国柄ならはのことである。日頃からお世話になっているのに、普段お礼を言う機会もない人々に感謝の気持ちを表明する機会にもなるクリスマスって、なんと素敵なことだろうと、この時期になると今になっても思ひ出す。

(井原由紀・松山聖アンデレ教会信徒)





「特任聖職」

十月十五日に開催された教区常置委員会以下の件を承認していただきました。「神戸教区における特任聖職・志願者の発掘および養成、教区民への啓発について、教区主教が神学塾運営委員会、聖職候補生養成委員会と相談しながら進めていく」。

事の起り

今年七月号神のおとずれに、中原康貴司祭が「論説・特任聖職」を書いていました。その結論部分で、「海外では特任聖職が《専任聖職と信徒》《教会と地域や職場》を結ぶ宣教の架け橋となり、欠かすことのできない存在となっています」と説明しています。この特任聖職について、中原司祭とあれこれ話をしている中で、中原司祭が今年三月までの一年間、東京の聖公会神学院で学んだ時に書いた論文「特任聖職の歴史と日本聖公会における

可能性」を読ませてもらいました。世界の聖公会の中で、如何に特任聖職が受け入れられてきたか、また日本聖公会での特任聖職のこれまでの経緯と現状を分かりやすく書いています。またその論文で触れられている一九九四年の「日本聖公会の現状及び将来に関する主教会の見解(管区事務所HPに掲載)」の中で、「都会型農村型を問わず、教会の中での特任聖職の活躍の場は無限であり、各教会が一人以上の特任聖職を持つときに、専門化された専任聖職とのチーム・ミニストリーによって、宣教の活性化が計られると確信する。」とまで、踏み込んだ発言がされています。

「特任」とは

「特任」という言葉で、何を表すかが問題です。現段階では、無給で、その働きが住んでおられる地域に限定されます。しかし、正当な手続きを経て、聖公会の聖職として正式に按手された聖職ということです。私たちの神戸教区には、八代学院で働きながら執事職を担われた中村四朗先生、広島で聖モニカ幼稚園の園長をしながら働かれた嶋田克己執事がおられました。大切なことは、神様の教会に對して何かしたいという思いです。

(神戸教区主教)

日本聖公会 第六十五(定期)総会報告

去る十月二十七日(火)〜二十九日(木)に、日本聖公会第六十五(定期)総会が東京にある日本聖公会管区事務所と各教区事務所を会場にリモートで行われました。

初めての体験でしたが、当教区からは小林尚明教区主教はじめ、聖職代議員の上原信幸司祭と芳我秀一司祭、信徒代議員の大東正人兄と覚前康子姉の五名が教区事務所に参集して総会に出席しました。

またリモート会議を円滑に進めるために総会期間中、宮田裕三執事が技術面のサポートとして会議に支障のないように教区事務所に詰めて奉仕して下さいました。特に首座主教選挙や常議員選挙は、オンライン投票で行われ、時代の進歩に驚かされました。

今総会の最大の議案は、「日本聖公会を現在ある十一教区を三つの宣教協働区に分け、各協働区に協働委員会を設置して区内の運営、宣教・牧会などについて協働を推進して教区再編について検討すること」と、教区再編に向けて『伝道教区』という過渡的な共同体の在りようの承認を求めるものです。尚、「伝道教区」とは

教区主教を置かず、管理主教の下で原則五年以内に教勢が戻り再び教区に復帰するの、あるいは他の教区と合併等の再編を目指す教区です。



ところで、なぜこのような議案が提出されたのでしょうか。日本聖公会の現状について、一九九〇年を境に信徒数と聖職者数が著しく減少しており、また経済的にも教区を維持できなくなってきました。こうした現状を踏まえて主教会は、日本聖公会の宣教体制を見直す作業を行って来ましたが、その結果がこの議案となりました。この議案に對して多くの教区の代議員から問題点が指摘され、長時間

にわたる審議が行われた結果、承認されました。宣教協働区の名称と区域は次の通りです。

- ① 東日本宣教協働区  
北海道教区、東北教区、北関東教区、東京教区
- ② 中日本宣教協働区  
横浜教区、中部教区、京都教区、大阪教区
- ③ 西日本宣教協働区  
神戸教区、九州教区、沖縄教区

しかし、信徒数と聖職数の減少という厳しい現状の中で、日本聖公会を維持できる方法として考えられた宣教協働区と伝道教区体制ですが、何故信徒や聖職が減少しているのかという根本的な原因と解決策が示されていないので、この減少傾向に歯止めが掛かるかは疑問です。そのため神戸教区としては、教区独自でのこの問題に對して調査研究が求められています。

その他の総会報告は全て承認され、議案については「日本聖公会祈禱書に『天皇のため』、『皇室のため』の祈りを加える件」のみが否決され、その他の議案は承認されました。

尚、新しい首座主教には、九州教区の武藤謙一主教が選出されました。

(管区聖職代議員・司祭 芳我秀一)

鳩だより 《敬称略》

祝 堅 信

十月二十五日(日)
モ ー セ 西 田 隆 史
徳山聖マリア教会

初 陪 餐

十月二十五日(日)
モ ー セ 西 田 隆 史
徳山聖マリア教会

ご 逝 去

十月二十八日(水)
フ ィ リ ポ 福 山 正 三
洲本真光教会

教 籍 移 動

十月六日(火)
ベタニアのマリア
長岡敏子

神戸昇天教会より京都教区
和歌山聖救主教会へ

サムエル 宮 永 真 幸
セシリヤ 宮 永 英 美
北海道教区聖マーガレット教会より
神戸昇天教会へ

ご 聖 婚

十月二十日(火)
エ レ ミ ヤ 宮 城 保 之
東京教区目白聖公会より
下関聖フランシス・ザビエル教会へ

十月 四日(日)
アブラハム 弘 井 創 太
橋 本 真 美

高知聖パウロ教会

第九〇(定期)教区会

十一月二十三日(月・祝)に、
日本聖公会神戸教区第九〇(定期)教区会が初のリモートで開催されました。

リモートでの開催ということもあり、会場は神戸聖ミカエル大聖堂をはじめ、計十三カ所が会場となり、各会場をWeb会

議ツールZOOMで繋いで、議論が進められました。詳細については、次号に掲載致します。

ヒロインたちへ感謝を!

二〇二〇年は、新型コロナウイルスの年と言っても過言ではないでしょう。様々な「当たり前」が変化し、「新しい生活様式」に慣れるまで、時間がかかった方もいらっしゃるかもしれません。しかし今年、コロナ禍において私たちの生活を普段から支えてくださるヒロイン、ヒロインたちの存在に、改めて気づくことが出来た年でもあり

ました。彼らは緊急事態宣言中も私たちの生活のために、コロナに立ち向かってくれました。その姿は時にスーパースタールの店員であったり、ゴミ収集車の作業員であったり、バスや電車・汽車の運転手、或いは医療器具や生活必需品を運ぶ運送業者となつて、私たちの生活を常に助けてくださったのです。そして今も、私たちを支えてくださっています。

救い主が幼子としてお生まれになったクリスマス、このヒロイン、ヒロインたちへ感謝の気持ちを伝えてみましょう。

(広報部 司祭 浪花朋久)

1月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2021年1月7日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 八代 智

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、ご出席される方は、事前に教区事務所までお問合せ下さい。よろしくお願い致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

\* 1月の記念逝去教役者

Table with 4 columns: Date, Role, Name, and Name. Lists memorial services for various clergy members in January.



どうぞ、教会のクリスマスへお越しください。